

メッセージ◎

自治研を自治の実践場とするために

結びつなげる! しまね自治研



山崎幸治・自治研中央推進委員長

「自治研とは何ですか?」と問われたとき、皆さんは何と答えるでしょうか。答えに窮してしまう方も多いのではないのでしょうか。それは、これまでの自治研活動が築いてきたものが、多様で自由だからです。自治研活動には、全国に広まった「ごみの分別収集」や「休日・夜間診療」をはじめ、市民との協働により、日本で初めて「市民立」の社会福祉法人を設立した児童養護施設もあります。また、住民と職員が一緒になり、毎年、田植えや道普請を行っているような地道な活動もあります。

自治研活動が多様なのは、地域で働き、地域の課題に通じている職員の問題意識が多様だからに他なりません。そのような自治研をあえて、一言にまとめるならば、仕事をしていると「こんなふうにしたら、もっと喜んでもらえるかな」とか、「こうす

ればもつといいサービスが提供できるのに」と思うことがあります。その思いを職場の仲間、市民といっしょに実現しようとするのが「自治研」「自治研活動」です。

この中で、わたしが一番気に入っているのは、「実現すること」ではなく、「実現しようとする」というのが自治研と切り切っているところです。つまり、結果ではなく、やってみたいと思う気持ちやプロセスに重点を置いていることが、自治研の本質だと思っております。

一方で、自治研活動を精力的に行っている職場や地域は年々少なくなってきました。私が最初に皆さんに投げかけた「自治研とは何ですか?」という問いも、その前提を共有できる仲間が少なくなってきました。かつて、より良い社会を生み出す

場として力を発揮した自治研の価値や存在意義を、時代の変化にあわせてもつと魅力的に映るよう磨ききれなかった。つまりリブランディングがはかられなかったことも一つの要因だと思います。一方で、自治研活動が停滞していった流れは、地域や職場から自治の持つ力が失われてきた流れと軌を一にしています。住民に最も近い場所において地方自治を実践する労働者として、そして、六〇年以上にわたり住民の地方自治を守り、民主主義を発展させるための運動として自治研活動に取り組んできた自治労として、この流れに対しては、やはり自治研をもつて抗いたいと思います。

先の静岡自治研では、「自治研ルネサンス」を掲げ、過去の自治研活動を振り返り、コモンを一つの柱に現代につながる新たな自治研の姿を模索しました。その意志を受け継ぐ、しまね自治研ではどのような挑戦をするのか、集会に先立ち少しご紹介したいと思います。

まずは、集会初日となる全体会で行う自治研セッションです。時代とともに変容する「くみとり」という公共サービスを題材に、公共の仕事が果たしている役割と自治の育て方を会場一体となり考えます。

しまね自治研では、壇上だけではなく、会場全体が自治研を体現する舞台装置となることをめざしています。しまね自治研に寄せられた数多くのレポート・論文をもとにしたポスターセ

ッションや、長年にわたり福井市職が地域で行ってきた「スナックアフター5」をアレンジした「公務員スナック」では、参加者同士での交流が生まれるチャンスです。全国集会という場だからこその出会いと、発見を楽しんでください。

さらに、しまね自治研では新しい挑戦として、次代の地域・公共を担う学生ともコラボレーションします。公務職場が選ばれる職場ではなくなっているという現状認識のもと、地域を支える仕事の魅力について、島根大学生としまね自治研参加者がボードゲームを通して楽しく考えるイベントを行います。このイベントは企画段階から学生と自治研推進委員が協働で作られています。また、集会開催地の環境負荷につながらない運営を行うため、フードロス対策にも取り組みます。

これらの活動すべてが自治研であり、集会に参加される皆さんは会場のあらゆるところで自治研に触れることができるはずです。島根の地だからこそ探求できる課題や発見がたくさんあります。長い道のりをかけてしまね自治研にお越しいただく価値が必ず見つけられると思います。たくさん時間と労力をかけて参加者の皆さんの受け入れ準備をしてきた、自治労島根県本部のおもてなしにもご期待ください。島根からの帰路、皆さんの頭の中に浮かぶ、「自治研とは何か」に対する答え合わせを今から楽しみにしております。